

施策番号 3-1-3	施策名 防犯対策と交通安全の推進	基本目標	快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり			
		政策名	安全安心に暮らせる生活環境づくり			
	主管課	総務課	課長名	大野 邦彦	内線	218
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
地域が一体となった防犯体制・交通事故防止に向けた取組みをすすめます。		町民 町内会	・犯罪事件発生抑制 ・交通事故の未然防止				町民の日常生活の安全安心が確保される
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 芽室町内で発生する犯罪件数(H25-30平均)	帯広警察署調べ	件	110	75	74	99件以下	
② 芽室町内で発生する交通事故件数(H25-30平均)	帯広警察署調べ	件	51	19	20	45件以下	
③ 安全安心情報配信登録者数	総務課調べ	件	953	2,042	2,282	4,000	
成果指標設定の考え方	① 前期実施計画平均値(H19-23)の10%減である99件を目標値に設定したもの。 ② 前期実施計画平均値(H19-23)の10%減である45件を目標値に設定したもの。 ③ 計画策定当時の世帯数(7,677)の約50%である4,000件を目標値に設定したもの。						

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	15,233	16,500
人工数(業務量)	1.1844	1.0261

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	計画策定時と比較して、犯罪件数、交通事故数とも大きく減少させることができた。安全安心情報配信登録者数も着実に増えている。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	町内で発生した犯罪及び交通事故は減少傾向にある。また、安全安心情報配信登録者も、計画策定時に比べ、1,300件以上増加している。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	交通安全対策事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
	防犯対策事業		
	少年補導員会運営事業		
	子どもの安全・安心確保対策事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	・犯罪件数の減少は、関係機関・団体との連携による効果が表れたものと考えられる。 ・交通事故件数の減少は、各種交通安全推進活動による効果が表れたものと考えられる。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	≪施策を取り巻く状況≫ 防犯、交通安全対策は、行政や関係機関・団体、地域が強固に連携し裾野を広げた地道な活動が最も重要である。 ≪今後の予測≫ 不審者対策、詐欺対策など、年々、巧妙化・凶悪化する中で、日常の住民の気づきによる通報、地域や企業・事業所の役割はますます重要となる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信号機や道路標識等の新設に関する意見が多い。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たにに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ● 課題① 関係団体との地道な連携活動の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の安定的な成果維持を目指し、関係機関・団体との地道な連携活動を継続する。 ● 課題② 住民への地道な啓発活動の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・ より多くの住民が、日ごろから防犯について当事者意識を持つよう広報を継続する。 ・ 異変や異状に気付いた都度、町や警察に通報する行為が未然防止の最大の手段であることを強化しながら広報する。 ● 課題③ 各種団体の活動の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯協会及び少年補導委員会については、防犯という意味では目的が同じであり、団体の統廃合の検討が必要な時期と考えられる。
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	指標は向上しており、意識の高まりがみられる。関係機関と連携した取組の実施など、策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	地域住民の当事者意識を高めることが重要である。関係機関・団体と連携を強化してもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	指標①②はほぼ横ばいであるが、③の指標は大幅に増えており、庁内評価と同じく策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	高齢者によるアクセルとブレーキの踏み間違いの事故などが急増しており、重点的に取組を行ってもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					